

## 「保険者フェスタ」で 活動の成果を共有

保険者機能を推進する会

121の健保組合等で構成する保険者機能を推進する会（代表理事会長＝三菱健保組合理事長・藤代勉氏）は11月20日午後、「保険者フェスタ2025」を開催した。従来は講演会形式の「保険者機能推進全国大会」を開催していたが、同会の研究会が活動の成果を持ち寄る研究会



保険者機能を推進する会「保険者フェスタ」(11.20)

発表と、特別講演会を組み合わせた方式に変更した。なお、同日付で藤代会長が退任し、小川佳政氏（ファイザー健保組合常務理事）が新代表理事会長に就任した。

研究会発表は、①療養費適正化、②レセプト・健診データ分析、③たばこ対策、④女性の健康、⑤特定保健指導応用、⑥シニアの健康、⑦マイナンバー、⑧扶養認定基準の各研究会が会議室等に分かれて研究成果の展示・発表を行うとともに、来場者にロコモ度チェックやVR生理解痛体験等を行ってもらう参加型のイベントとなった。

健診事業のあり方研究会の企画による特別講演会は、「がん検診の『質』を守るしくみ」をテーマに、国立がん研究センターがん対策研究所研究員の高橋宏和氏が「がん検診の利益・不利益と精度管理の基本」、摂南大学農学部食品栄養学科教授の小川俊夫氏が「がん検診精度管理システム」の運用から見えてきたこと」と題して講演した。

講演会に先立ちあいさつした厚生労働省保険局の佐藤康弘保険課長は、「職域におけるがん検診は政府においてもホットトピックとなっている。精度管理や自治体検診との連携をどうするかなど課題はあるが、保険者の立場からどのような課題があるかも含め、忌憚のない意見をいただきたい」とのべた。

講演会で高橋氏は、がん検診で重要なことは受診率向上だけではなく、エビデンスのある「正しい検診」を、精度管理を行い「正しく実施」することと強調した。また、検診で発見できるがんには限界があることから、他の予防策を併せて実施する必要性を指摘した。

小川氏は、職域の精密検査受診率は50～60%で地域よりも20ポイント程度低く、課題があることを指摘し、厚生労働科学研究所の一環で開発した「がん検診精度管理システム」を紹介した。レセプトデータや検診結果をシステムに投入することで精密検査受診・未受診の把握、がん発

## 掲 示 板

―健保組合の動き―

〈事務所移転〉

▼GWA健保組合＝〒108-0014 東京都港区芝4-9-4 芝浜ビル

7F ㊦、㊧は従来通り

▼西日本パッケージング健保組合＝〒550-0004 大阪市西区靱本町2-3-2 なにわ筋本町MIDビル8F ㊦、㊧は従来通り

▼ニチバン健保組合＝〒102-0083 東京都千代田区麹町5-1 麹町弘済ビルディング6F ㊦、㊧は従来通り

見率等が簡便に算出できるシステムで、現在、保険者に試用版を無料で提供し、運用改善を図っていることを説明した。

全体講評を行った東京大学未来ビジョン研究センター特任教授の古井祐司氏は、「健保組合自らが知識だけでなく、実践を共有し、本音ベースで意見交換ができています。各研究会の特徴を活かし、参加者の思いを大事にして活動を続けてほしい」とのべた。なお、参加者数は会場450人、オンライン150人で過去最高となった。